

| | | | |
|---|--|-------------|-------|
| 年度 2008 学期 前期 | 曜日・校時 金 1 | 必修選択 選択 | 単位数 2 |
| 授業科目/(英語名) | 地球と宇宙の科学(図解と計算で解く地球科学の諸問題) Earth and Space Sciences (Graphic and Numerical Solutions to Problems in Geoscience) | | |
| 対象年次 1・2 年次 | 講義形態 講義 | 教室 | |
| 対象学生(クラス等) | 全学部 | 科目分類 自然科学科目 | |
| 担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 武藤鉄司 /Eメールアドレス: tmuto@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 環境科学部本館 1 階 161 号室 /TEL: /オフィスアワー: 月曜日 13:30 - 17:00 | | | |
| 担当教員(オムニバス科目等) | | | |
| 授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 | | | |
| <p>授業のねらい: 地球科学における初歩的～基礎的な知識を図解と計算を通じて学習する。科学的事実を「憶える」のではなく、自分の手と頭を使って「考える」習慣を身につけるための訓練をおこなう。</p> <p>授業方法: 一方的に講義することはしない。受講者は、毎回、図解もしくは計算で解く問題を課せられる。</p> <p>授業到達目標: 地球科学のよく知られた基礎的な問題について自分の言葉で解法を説明できる。</p> | | | |
| 授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) | | | |
| <p>授業内容(概要) 地球科学上の易しい個別的問題を取り上げ、図解と計算を通じて理解を深める。高校で地学の履修歴がなくても十分に理解できる内容。とくに数学や物理が得意な人、思索好きな人に向いている。</p> <p>第1回 オリエンテーション / 気候変動の放射平衡モデル(0) 第2回 気候変動の放射平衡モデル(1) 第3回 気候変動の放射平衡モデル(2) 第4回 地震における規模と発生頻度の規則的關係: グーテンベルグ・リヒター公式(1) 第6回 地震における規模と発生頻度の規則的關係: グーテンベルグ・リヒター公式(2) 第7回 物質の平均滞留時間(1) 第8回 物質の平均滞留時間(2) 第9回 アイソスタシーとハイドロアイソスタシー 第10回 流域の削剥速度(1) 第11回 流域の削剥速度(2) 第12回 地層累重様式の規則性:マルコフチェーン解析(1) 第13回 地層累重様式の規則性:マルコフチェーン解析(2) 第14回 海水準変動のもとでのデルタ海岸線の移動軌跡 第15回 総括(試験を含む)</p> | | | |
| キーワード | | | |
| 教科書・教材・参考書 | 毎回プリントを配布する。教科書は使用しない。必要に応じて適宜文献を紹介する。関数電卓必携。 | | |
| 成績評価の方法・基準等 | 授業への取り組み状況 20%、小テスト 20%、定期試験 60%。無遅刻・無欠席が原則。 | | |
| 受講要件(履修条件) | | | |
| 本科目の位置づけ /学習・教育目標 | | | |
| 備考(準備学習等) | | | |